

令和4年 飯田市教育委員会7月定例会会議録

令和4年7月15日（金） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子
教育委員	野澤 稔弘

【出席職員】

参与	松下 徹
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長	宮下 利彦
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは時間になりましたので、令和4年7月定例会を始めます。よろしくお願ひいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、会期の決定、7月定例会の会期を本日1日とさせていただきます。よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、お認めいただきありがとうございます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録の署名委員の指名、会議録署名委員を上河内陽子教育委員にお願いしたいと思います、よろしいですか。

◇教育委員（上河内陽子） はい、分かりました。

○教育長（熊谷邦千加） よろしくお願ひします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認、6月定例会の会議録をご確認ください。何かご意見があればお願ひいたします。

（「ございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、承認いただきましてありがとうございます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第5、教育長報告事項。別紙をご覧ください。

飯田市校長会が6月20日にございました。校長先生方から質問や要望等いただく中で、なるほどと思ったことがございました。例えば伊勢市との交流、大分長く続いているんですけど、そのきっかけや、伊勢市との関係はどうなんだろうというようなこと、継続している大事な行事なんですけれども、長く続いているがために、何のためにどういう意味で行っているのかというところを改めて押さえなければいけないと思いました。

同じように、学校運営協議会の長期的な見通し、これも少子化に伴う学校のあり方の検

討の中でどういうふうに進んでいくのかというような、先の見通しを持った上で協議いただくということの大事さを教えていただいたところでもあります。

さらには、校長・教頭にもタブレットがほしいという意見もありました。実際にどう使っているのかっていうようなこともそういった要望もいただいて、それも大事なことなのかな。予算の関係もございますので、そこを見ないとなかなか難しいところもあります。

あとはタブレットの使い方、PTAで使えないだとか、Google classroomに校長・教頭の入る方法はないかというようなこと、現実的な課題として著作権の関係でなかなかPTAでは使えないんですけれど、いろいろな状況があったりしまして、そういったことへの理解もあります。

いずれにしてもさっき申し上げたように、目的をしっかりと確認して、意義ある内容にしていく必要があるなあということを感じました。

2つ目の第1回文化審議会委員会が6月21日に行われました。8名の委員の皆さんに委嘱状を交付し、新たな委員さんも2人いらっしゃいましたけども、いずれも研究意欲・情熱を持った大ベテランの皆さんでございます。委員長が小林さん、職務代理が伊坪さんに互選で決まっております。

3つ目の市長と語るまちづくり懇談会、私が参加させていただいたのは全てではなくて橋北、龍江、松尾、南信濃でございます。

様々なご要望いただく機会でありまして、特に感じたことは、それぞれのまちづくりの会長さんたちがやっているんですけども、主体的に取り組んでいる様子を発表いただいているようなところが多々ありました。

それからそういう中で、教育委員会には、「子どもたちの迎えを待つ場所にトイレをつくってもらえないか」という要望があったりとか、「やまびこマーチのコースを変えてこっちのほうでしてもらえないか」というようなご要望とか、「部活動の地域移行の地域とはどういうふうを考えてやっているんだ」というようなご質問をいただいたりとか、小中連携だけでなく保育園も含めた、保小中連携の強力な支援をぜひしてほしいというようなことであったりとか、人手不足への支援をしてほしいというような声をいただいております。

4つ目、市議会スポーツ振興議員連盟幹事会というのが7月4日に行われました。県営施設の芝生化のことですとか、部活動の朝練習についての質問であるとか、飯田市型スポーツスクールの指導者の報酬についての質問等をいただいて共有したところがございます。

5つ目の三遠南信教育サミットは浜松市で行われました。根羽村の教育長さんから義務

教育学校の根羽学園について説明があったり、詳しくはこのあと報告がありますので、そちらで資料等ご覧をいただきます。来年度開催が飯田市となっておりますので、またご協力をお願いいたします。

6 番目、最後ですが、7 月 10 日に南信美術展の授賞式がムトスぷらざで行われました。作品はジュニア部門もあって、高校生から上は 93 歳とか 98 歳の方の作品もあるんですが、作品を見ると全くそれを違いが分からないくらいにエネルギッシュで素晴らしい作品が一杯あって、ムトスぷらざっていう場所がまた作品を映えるような雰囲気があっていい作品展になっていたなあというふうに感じました。

以上、参加させていただいたところから、この後の説明と重なるかもしれませんが以上でございます。

何かこの報告につきましてご質問ございますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

日程第 6 議案審議（2 件）

○教育長（熊谷邦千加） 日程第 6、議案審議に入ります。本日は 2 つの議案についてご審議をお願いします。

議案第 49 号 令和 4 年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、議案第 49 号、「令和 4 年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」。

桑原学校教育課長。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第 49 号、「令和 4 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いをいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にてご認定をいただきますようご提案申し上げます。

よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいま説明がありました議案第 49 号につきまして、ご審議をいただきます。

ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

議案第 49 号について、ご承認いただいたということでもよろしく願いをいたします。

議案第 50 号 飯田市少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会委員の委嘱
について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、議案第 50 号、「飯田市少子化における児童生徒の教育環境
の充実に向けた取組研究会委員の委嘱について」。

桑原学校教育課長。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第 50 号、「飯田市少子化における児童生徒の教育環境
の充実に向けた取組研究会委員の委嘱について」をお願いをいたします。

設置要綱に従いまして、この研究会の委員を委嘱したいものでございます。

氏名、区分、所属、それから備考欄には再任・新任が記載してございますが、記載のと
おりでございます。

校長会の代表者、PTA 連合会の代表者、保育園保護者会、私立の認定こども園保護者
会、まちづくり委員会の代表者、それから飯田市公民館では前委員の飯田市公民館長が継
続してくれることとなっております。新たに今年度、公民館から選出をしておりますの
で、1 名増の公民館 2 名という形になっております。それから学識経験者ということで、
6 ページの一番上の段まで、合計で 14 名でございます。

昨年度は、このほかに信州大学の学術研究員の教授の伏木先生が委員となっていた
ておりましたが、今年度はフィンランドへ 1 年間研究に行っていらっしゃるとい
うことで、今年度は後任を委嘱いたしません。戻ってきたらまたぜひ委員にと事務局では思
っております。公民館が 1 名増えた関係で、人数は 14 人ということで変更がござい
ません。

提案理由の下のほうですが、任期は令和 4 年度末までといたします。

また、教育長とそれから教育長職務代理者におかれましては、委員としてこの研究会
に参加をしていただくこととなります。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました、議案第 50 号につきましてご審議をいた
だきます。

ご質問ご意見がありましたらお願いいたします。

(「ありません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） はい、それでは議案第 50 号について、承認ということでもよろしく願いいたします。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程第 7、「協議事項」。

(1) 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について

○教育長（熊谷邦千加） (1)「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について」。

桑原学校教育課長。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、毎月定例でご報告をさせていただいております「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組」の状況でございます。

本日、担当の代田補佐が学校運営協議会のため、欠席させていただいておりますので、私のほうからご説明を申し上げます。

資料No.1、7 ページでございますが、今年度、学校運営協議会で話し合いを進めてきておりますけれども、校長先生、あるいは委員の方々から、「この話し合いの位置付けといたしますか、どこの地点にいるのかっていう目的みたいなものの整理が、いま一度分かりやすく説明してほしい」ということもございましたし、また今度、先ほど委員の委嘱を認めていただいた研究会を行いますので、そのためにということもありまして、進め方について整理をした資料でございます。今までの説明と重なる部分もありますが、改めて確認をいただければと思いますので、簡単に説明をさせていただきます。

まず、あり方検討の目的でございます。

児童生徒数の減少、それから施設の老朽化というのが進んでいる状況で、現在の学校の配置、枠組を今のまま継続するということは、実質的に困難な状況でございます。また、子どもたちもただ勉強ができれば良い、学力が高いっていうだけではなく、自らの生き方を主体的に切り開いて、人ともつながりあって生きていく力を培うこと、それから地域の担い手、支え手として育っていくことが教育課題となっております。

また、リニアが開通いたしますと、都会との距離が近くなってまいりますので、学力を重視するだけでは、都市部の小中学校に通う選択肢っていうもの広がってくるっていう可能性もありますので、こういった学校、地域の学校では、「教育移住も視野に入れながら」と書いてございますが、学校と地域が協働して特色・特徴ある学校づくりをいかに進めて

いくかという話し合いがこれまで以上に重要になっていると考えております。そういったことから、子どもたちにとって望ましいこれからの学校のあり方を、「特色ある学校づくり」それから「学校の配置枠組」といった両面から検討し、方針を導き出していこうという目的でございます。

あり方検討の進め方でございますが、この課題自体は非常に難しく、ある程度年数が必要になってくるという内容かと思えますけれども、重点検討期間ということで、昨年度から来年度の3年間を一応目安として、当然延びてしまうことも考えられますが、目安として取り組んでいきたいと思っております。来年度には「学校のあり方の方針案」、という形である程度まとめをできればという目標でございます。

進め方につきましては、先ほどのお認めいただいた研究会を設置いたしまして、今は主に進め方について協議の方向付けをいただきながら進めているという状況でございます。

(3)のプロセスでございます。

令和3年度については、人口減少、それから施設の老朽化といった実際のところの説明をさせていただきまして、概ね委員の皆様には共通理解をいただいたんだなと。また、保護者の方々にも資料をお配りいたしましたので、一定程度はまとめることができたのかなと思います。学校運営協議会では「特色ある学校づくり」、それから「学校の配置枠組」ということで大きくこの2つに分けて自由に意見を出していただいたという形になっております。いろんなご意見をいただいて本当にありがたかったかなあと思っております。

令和4年度ですが、昨年度の取組から引き続きなんですけれども、「特色ある学校づくり」については、引き続き学校運営協議会が中心となり、また必要により広くそのほかの住民の方の意見もいただきながら、さらに意見交換を進めて深めていきたいというのが1つでございます。

意見交換の中では、客観的なデータというのをお示ししながら、子どもたちの姿をまず共通理解し、その上で将来の、10年後20年後くらいの子どもの姿を思い描きながら、「この学校はどんな特徴があるの」、「どんな学校がいいんだろう」というようなことを中長期的な視点から意見を出して合っていただくということをやっております。

「広い世代から意見を」ということ、特に「もうちょっと若い世代から」というようなご意見も昨年度、研究会でもいただいておりますので、そういった意向調査というようなこともやりながら意見交換をしたいということを考えているところでございます。

それから8ページでございます。

「学校の配置枠組」については、一旦、これは学校運営協議会ではなく、事務局のほう

に下ろさせていただいて、研究チームを設置し、国の指導等とあるいは先行的な枠組事例の調査検討し、外部有識者のアドバイスをいただきながら事務局のほうでまずは研究をしたいというように整理をさせていただきました。

来年度は地域や学校で話し合う「特色ある学校づくり」に関する意見と、事務局の研究チームの研究内容をもとに、今は研究会となっておりますが、今度はその答申案等についても協議をしていただくということで、例えば審議会等に発展させるような形を考えておりますが、そういったことをご審議をいただくということを考えているところでございます。

6年度以降については、その答申案を示して協議して方針をまとめていければと考えておるところでございます。

9ページは今年度のスケジュールでございます。

5月20日から学校運営協議会が始まっております、今日も座光寺小学校で臨時学校運営協議会が開かれているという状況でございます。明日以降、残るは6か所という予定でございます。

それから研究会でございますが、7月28日の午後7時に委員の皆様にお集まりいただきまして、年度の最初ということで委嘱状も交付させていただきながら、4年度の取組、それから臨時学校運営協議会の意見の内容等をお示しし、進め方についてご協議いただくことと、今後の意見交換の内容を踏まえた意向調査等々についてもご意見をいただければというふうに考えております。

10ページ以降でございますが、今年度既に始まっている学校運営協議会の一部でございますけれども、主な意見をメモ程度でございますがまとめてあるものでございます。内容については、またご覧いただきたいと思っておりますけれども、その学校、多くの具体的な特徴のご意見が出たり、あるいは「『特色ある学校づくり』っていうのは大事でこれは考えていくべきだよ」っていうような意見、それから「やっぱりもっと広く若い世代の意見を聞くべき」っていうような意見も出ております。また、どうしても配置枠組っていうことに触れられる委員もいらっしゃる状況でございますが、こちらのほうについてはご覧いただければと思います。

以上でございます。よろしくお願いたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいま説明のありました件につきまして協議をいただきたいと思っております。ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

◇教育長職務代理人（北澤正光） 今年度の位置付けがとっても大事だという話が昨年度末まで

の研究会でもありました。そうした経過を踏まえて、今年度は、昨年度のまでの市全体のデータとかというよりも、学校ごととか中学校区ごとに寄せたいろんなデータをお示しして実施してきているということですが、具体的にその学校ごとに寄せたようなデータをお示ししての中で、運営協議会の委員の皆さんからの反応というか出てきている意見とか感想等は、我々の考えている次へ一步一步向かって行けるようなものが出てきているのでしょうか。この10ページから大きくまとめていただいているのはあるのですが、昨年までとこんなところがちょっと変わってきている、学運協の委員さんの意見でもこんな提案があったというようなものはあったのでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 学校教育課長。

◎学校教育課長（桑原 隆） 具体的に各学校で出た意見と、そのデータの関係のここ全部まだ受けている状況ではないということで、把握してない部分もあるんですけども、主な意見等見ますと例えば川路小ではいじめがないということであるとか、そういった学校の示した資料を基に意見が出てるところがあるのかなあというふうに思っております。

ただ、全体的にはそのデータをもって10年後20年後の子どもの姿だとか、あるいは特徴・特色ある学校に直接結びつくデータばかりではないので、それとはまた関係のない、それはそれで共通の認識をした上で、委員の皆様のお考えやご意見をお話していただくということのほうが多いのかなと思っております。

○教育長（熊谷邦千加） はい、参与お願いします。

◎参与（松下 徹） 補足します。7ページの令和4年度のラインボックスのところを見ていただきたいんですけども、「意見交換では」というところで、大きくスリーステップ方式みたいな形で書いてあります。第1回目は、全国学力・学習状況調査、あるいは学校評価アンケート、こういったものをテーブルにのせて、こんなイメージですねという主観的な議論だけではなくて、そういうデータも基にして、今の子どもたちの実態を把握することを主題に意見を交わしていただいたので、資料にまとめられているのは、今の子どもをどのように捉えるかっていうところを中心にしたご意見ということになります。

その上で、次回からいよいよ、今の子どもたちがどういう力をつけて社会に出ていく必要があるのか、地域の担い手になっていく必要があるのかといったこと話し合っていくこととなります。さらにアンケートを、特に子育て世代の皆さんの意識調査をしながら、議論をしていくということなので、今、職務代理がおっしゃったような次に向けてというのは次回以降から本格的にお話し合いをいただくというような考え方です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。去年、話し合いをしたじゃないかと、今年また同じことやるの

かっていうようなご意見もありましたので、資料No.1のような形のものをつくっていただいて、今年度の話し合いの目的、今後の推進の位置付け等をはっきりして協議いただいていくということですね。

そのほか、実際のご意見等を見ていただいても結構ですので、率直なご感想も含めていかがでしょうか。

上河内委員さん、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） はい、あり方検討の目的ということで、改めて共有をしてから話し合いが進められるということだと思います。

それで少し気になることがあります。それは、今学校だけではないフリースクールも増えているという現状も知っていただくのが、もしかして必要かもしれないと思うことです。この間、NHKを見ていましたら、長野県でも4年前に比べて2.5倍ほど増えているということで、長野県がネットでフリースクールの経営支援のため寄附金を募集するというようなニュースがありました。

それを考えると地域の中、飯田市でもやはり不登校になる子は増えていると思いますし、その子たちは地域の外のスクールに通えるなら通ったほうが良いという感じですので、そうなるとその地域だけではなくて広い視点から子どもを支えてほしいというふうに地域の方々には願うわけです。そういった子どもたちが少なからずいるということも知っていただきながら、全てを包み込みながら話し合いを進めていただけたらありがたいのかなというふうに感じました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） このあり方検討の目的というところにある少子化、児童生徒数が年々減少というところや学校施設の老朽化が進んでいて進行しているというものであるとか、地域の担い手、支え手として育っていくこと、そういったいろいろな目的がありますがけれども、これそれぞれに対応していく時間軸が違うのかなというところを少し感じると思います。もう子どもが減ってどんどん学校が古くなっていくって、やっぱりどんどん年々進行していくことで、こういったことをゆっくり考えていって、これ6年からということですけども、先々どういうふうな形でどんどん少なくなる、古くなるってような対応していくのか。また、子どもたちの地域の担い手としてというそういった部分、10年後・20年後を見据えてといった部分、じゃあ今の子どもたちに何ができるのかというそういった議論は、読ませていただくと市民の方たちから出ているのかなと

思うんですけれども、今やること、そして早急に結論を出さなきゃいけないこと、先々こうしていきたいことっていう様々なものを同じ時間軸で検討しているのかなということころを少し感じます。

早急にしなければいけない点については早急に結論を出していく、長い目で見ていくっていうテーマについては長く、今現在、子どもたちに対応できると思うことについては早急に対応していくっていう、地域から発信されたものを活用していくといったところがいいのかな、ちょっとそんな疑問感を持ちました。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

この出ている意見が、そこら辺が混在しているということですね。

では、参与をお願いします。

◎参与（松下 徹） 重要なお指摘なので若干整理していきますけれども、まず施設の老朽化については、28校の中にはまだまだ新しい施設と追手町小学校のような極めて古い施設がありますが、大規模な長寿命化の改修は飯田市教育委員会の施設等総合管理計画という計画がありますので、この計画にそって進めていくということになります。当面、令和3年度から7年度を第1期として設定していますが、この中で例えば上郷小学校の長寿命化を先行的にやりましょうっていうことが位置付けられています。

ほかの学校も位置付けられているんですけれども、長寿命化改修については児童数等を考慮して学校の大きな枠組変更はないことと、老朽化具合を重ね合わせて見ながら組立をしていきます。

○教育長（熊谷邦千加） どうぞ続いて三浦委員。

◇教育委員（三浦弥生） そうしますとそれぞれの学区と言いますか学校において、例えば老朽化しているそういった見解がある。ここは子どもの数がもう少なくなる、ここはまだまだ少なくならないというようなそれぞれの学校において、その課題となるものっていうものがもし違って、今は一緒になって同じテーマに向けた課題をお話し合いいただくようなお願いをしてくれていると思っていたのですけれども、それぞれのところでそういったものが違うのであれば、その地域に合ったものでやっていただいた方がいいのかなと思いますが、そういうふうにやっていただいていたんでしょうか。同じテーマで臨時でやっていただいていたんでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、松下参与、お願いします。

◎参与（松下 徹） 先ほど課長のほうから説明いたしましたけれども、去年は「特色ある学校づくり」と「学校の配置、枠組」という2つのテーマを設定して自由にご意見をいただく

ということをしました。その中でいろんなご意見をいただきましたが、今年の場合は最初に申し上げた「特色ある学校づくり」に軸を絞って、そこを共通的に議論いただいています。これはどの学校もこれからここにあるような状況変化を見通して行く中で、どういう学校づくりを、子どもを真ん中に置いて進めていくか。学校、地域、家庭が協働してどういう学びの場をつくっていくのかということは、どの学校においても重要な話ですので、そのところにテーマを絞って進めていただいているところです。

しかしながら、どうしても児童生徒数が減少してきているところ、枠組のところも当然ご意見をいただきますので、大きな分けをしながらも関連するところは議論していただきながら進めていくという形です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、三浦委員さんよろしいですか。

◇教育委員（三浦弥生） はい。

もう1つ。8ページに方針をまとめるのは令和6年度からとありますが、いつまでにと
いうゴールはあったんでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、松下参与。

◎参与（松下 徹） 先ほど三浦委員さんが最初に言われたことと重なる部分もありますけれども、確かに難しい課題ですが、ある程度期間を設定して、重点的に検討していくっていうことが必要であると。教育委員会のほうは職員がどんどん変わっていくということと、会議の構成員の皆さんもあて職の方も大勢おいでになりますので、変わってってしまうということを見ると、ある程度集中的に検討し、一定の方向出していく期間の設定が必要だということで、それを去年から来年までの3年間にしています。

ただ、28校をどうするっていうことを一気に全て方針を出し切るということは難しいので、その中で大きな方針としてこう考えるんだけど、例えばこの中学校区はこういうふうに考えていくってようなことを当面の方針として打ち出していくとか、おそらくそういう形になってくるだろうと思います。

3年間っていうことは、今までの教育委員会の中でも申し上げてきてますけれども、具体的なステップについては十分にお話をしてこなかったところがあるので、正確に申し上げるとこれは案でありまして、研究会の中で進め方について検討いただくということになりますので、研究会の中で次年度の進め方も含めてご意見をいただいて、その中で決めていくこととなります。

○教育長（熊谷邦千加） まずこの検討期間が3年間として、老朽化の度合いにもよりますが、老朽化でもう50年以上たっているところが優先的にどうするかってことはその後は具

体的に検討していくっていう流れになるかと思います。

◇教育委員（三浦弥生） それではその後のことについては、この研究会のほうでこれからの計画を立てて、それに沿って方針が出れば進めていくと。

○教育長（熊谷邦千加） そうですね。これは検討いただくことですね。

◎参与（松下 徹） 進め方について、研究会で検討していただくことになりますので。

◇教育委員（三浦弥生） 研究会で。分かりました。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

◇教育委員（三浦弥生） はい、すみません。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ほかよろしいでしょうか。

野澤委員さん、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 私は、去年の 10 月にこの場所にまいったものですからちょっと流れが分からないので。

これをやるというのは感情を抜きにするとお子さんが減っている、校舎等が老朽化しているということを考えると、学校の統廃合というのをある程度視野に入れて考えているというのが、感情抜きになる論議の中であるのかなというふうに感じています。

それをやるにあってやはり次、非常にデリケートな問題なので、学校運営協議会というものを通じて、それぞれの校区のところの意見を聞きながら、またそれをやるにあたってそれぞれの学校がどういうふうに学校のあり方を求めていくかということを経験して、最終的にその部分を決めていかざるを得ない状況になるのだろうということを経験していかなくてはいけない、そういう意味合いのものということに理解してよろしいですか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、松下参与。

◎参与（松下 徹） 基本的にはそういうことでよろしいと思いますが、かつては児童数が減り施設が老朽化して、いわゆる言い方悪いですが、縮小や消極的な機能として統廃合しましょうっていうふうに考えられた時期がありましたけれども、今はもう少しポジティブに、学校の枠組を変えて、より子どもたちの育ちを確実に支援できるような学校のあり方をつくっていくということもありますので、去年の議論の中でもありましたが、例えば小中連携・一貫教育のようなものをそれぞれの学校ですべて続けてきている中で、例えばそれをより進めていく上で学校の配置や枠組を考えていくっていうことも、飯田市の今までの取組を次のステップに向けていく課題の 1 つではないかと思っています。

例えばそういう積極的でポジティブな考え方で新たな枠組を変えていくっていうことも、検討の中では絶対に必要になるということで、そういった意味で特色づくりみたいなこと

もテーマにして、議論を進めていくということです。

○教育長（熊谷邦千加） 野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） はい。

あり方という部分では、先ほどキャリア教育のところにあったかと思うんですけど、我々が、人が暮らしていくっていうものをテーマにするような学校づくりもありかなっていうふうに思っています。

例えば、先ほどの資料では遊びという括りで書いてありましたけども、あれはまさしく学びにしてどうやって稲をつくって、お米をつくって、それをどうやって食べる。それとか、山里などで自分たち木を切り出すようなことは子どもたちは大変かもしれませんが、その木を使って自分の使う机や椅子をつくってみるとか、そういう自分の暮らしですね、そういったものに直結するようなそういうものを地道に子どもたちに教えていく。その中から木はこうやったら強度が強くなるねとか、そういうところから学びを得ていくような、そんな学校づくりができれば、都会にはない、ここでしかできない、そういうありようが成り立つのかなと思うんですけども、時間軸を今の世の中はどんどんどんどん切り刻んでいって、短い時間で効率良くという、そういう世の中になっているんですが、学校で教えることっていかにもっともっと長い目で見れるような、そういう時間軸のものを教えてあげるっていうのはすごく大事なような気がするんで、そんなことができたらいんじゃないかなというふうに感じます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

よろしいですか。

◎参与（松下 徹） ありがとうございます。

まさにそういった「特色ある学校づくり」をテーマとした議論などでは、野澤委員さんがおっしゃったようなことが交わされて、これからのより良いものが見いだされていく、そういうことを議題として進めていきたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） まさに野澤委員さんがおっしゃったように、それぞれの学校、学区で今おっしゃったような特色をうちの学校としては出していきたいっていうことを皆さんで考えたいなあと思っているところでありまして、それなくして統廃合を考えてみても、参与おっしゃったようにポジティブじゃないもの、後ろ向きの議論のような話なので、ぜひそういうご意見を各学校でも考えていただけるといなと思っています。

よろしいでしょうか。

三浦委員さん、どうぞ。

◇教育委員（三浦弥生） もう1つだけすみません。

少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会というのができていて、学校運営協議会のそれぞれの地域のこういった課題についてお話をいただくっていうことは、この研究会のほうから依頼してっていう、そういった形になっているんでしょうか。そして、その意見を研究会に持っていくっていう、中心が研究会ということになっているんですか。

○教育長（熊谷邦千加） 松下参与、お願いします。

◎参与（松下 徹） すみません、今日、研究会の設置要綱が付けてないもので申し訳なかったです。

研究会は、内容的な議論をいただくことはいただくんですけども、基本的にはその進め方についてご意見をいただいて方向付けをしていくっていうことを主としていますので、そういったところで今日、ご説明したような形の進め方の案を示しご意見をいただいて、次年度を含めたどうい進め方をしていくかを見定めていければなと思っています。

具体的にどうするかという議論は、この中の資料の中でいうと次年度以降に、これは決まりではなくてご議論いただいて決めていくということですけども、審議会的な組織を設置して、これまでの各学校運営協議会、各地域の中ではこういうご意見をいただいていますよっていうことと、教育委員会の研究チームの研究においては、これからの学校の枠組のあり方についてはこういう選択がありますよということをご説明しながら、審議会の中で議論いただく。議論の筋道を、例えばそういった形で考えています。

◇教育委員（三浦弥生） 議論をいただく1つのデータっていうか内容にしているってことなんですか。

◎参与（松下 徹） そうですね。それを一方的に、よく教育委員会が、こういう状況であるということを一いきなり投げかけて議論するやり方もあるでしょうけれど、今の検討の進め方は、時間がかかるのですけれども、じっくり地区のほうからボトムアップで議論をいただいて、それを基に協議いただいて、方向付けをしていくということです。

決して去年、今年の学校運営協議会の議論っていうものは、無駄にはならないと考えています。今までの学校運営協議会の中でも、単年度の視点でどうしていくかという議論はされてきましたが、中長期軸で学校のあり方をどうするっていうことをこれだけ時間をかけて協議をいただいたことはないというように思っています。そういった意味で、いきなり教委からの案を示すやり方に比べ、遅いやり方ですけども、そういう時間や今日のよな話し合いをしながら進んでいくっていうことが、これから考えたときに重要なこと

思っています。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） こちらとしてはそういう長期軸での議論をしていただきたいんですが、中には短期軸の、今の議論も混在をしておりますけれども、願いとしては将来的なものを議論していただきたいと考えているところでございます。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

それでは、次に行きたいと思います。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 日程第8、陳情審議でございます。陳情審議は今回ございません。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程第9でございます。その他。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （1）「教育委員報告事項」、それぞれ報告事項がありましたらお願いいたします。

三浦委員さんから。

◇教育委員（三浦弥生） 大きなものはありません。コロナ禍でケーブルテレビなんかを視聴する時間が多くなってまいりました。冒頭に教育長先生のほうからあった南信美術展、ムトスぷらざでの開催というものもケーブルテレビで拝見しました。

いい作品があるなということで見ておりますし、またムトスぷらざがあのような形で市民の皆さんたちに楽しく活用していただいている姿を見たのが本当にうれしいなという、そんな感想を持ちました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 来場者も1,500人ほどで、ものすごく多かったみたいです。

◇教育委員（三浦弥生） 賑わっている姿が本当にうれしかったです。

ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

上河内委員。

◇教育委員（上河内陽子） 中学校の参観日に行ってきました。コロナ禍でありながら、子どもたちも一生懸命勉強している姿も見れましたし、先生方も様々に工夫してサポートもしながら探究学習に力を入れてくださったりということでいい姿が見れたわけですが、1つそれで気になったことを申し上げますと、テストの結果を娘とか持って帰ってくるんですが、そのときに5教科のテスト結果を見ると、何点取った人が何人いるっていうような感じが出るわけなんですけれども、それをずっと保護者として見てきている中で、できる層もあるけれども、できないっていう層が結構厚いんじゃないかなということが気になります。具体的に言いますと、500点満点の0点から100点っていうところの層が結構2桁いたりとか、前からこうなんだろうかという疑問を持ったり、どういう具合でこうなっているんだろうか。

学校生活が楽しめているだろうかという心配をしてみたりですとか、先生方もいろいろなきめ細かな指導はしてくれていると思うんですけども、やはりそういったフタコブラクダというふうに教頭先生か校長先生の会議でも言ってらっしゃった先生がいましたが、そういう層というものをどうやって自己肯定感を下げずに、いきいきと学校生活してもらえんのだろうかっていうことは、本当に考えていかなきゃいけないなあという感想を持ちました。

またいろいろ、あれば教えていただけたらなあと思います。

ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

専門幹、何かあればお願いします。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） 学力、確かにフタコブというか上位層と下位層の傾向が出ているっていうのがあるかなあと思います。また、教科によったり学校によったりっていうところもあるかなあと思います。

今ですと、ICTを使った学習とか、それからなるべく個別にともに学び合うというか、分からない子どもが自分で分からないから教えてって聞けて、教室の中で一緒に教え合いながら学び合っていく、そういう授業形態を通しながら、子ども一人一人に合った学習のスタイルを見つけながら支援を一生懸命続けているというのが今の学校の現状かなと思います。

なかなかそういう部分は、簡単に解決していかないというような現状がまだまだあるか

なあと思っています。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 私が現職のときにも悩みがそこでした。本当に教科によるんです。特に数学とか英語がフタコブラクダになりやすく、要するに積み重ねの教科と言われるもので、どこかでつまずいてしまうとなかなかそこから上へ学力が身についていかないと。例えば小学校でいくと小数とかあるいは分数のところにつまずいてしまって、その後が難しいとか、中学校でいくと2次関数のところでぶつかってなかなか伸びていかないと、そういうような壁があったりすることは事実かなあというふうに思います。

やはり先生方も小中学校の義務教育の場合は学力のそういう広い差がある子はできるだけ真ん中にとか、伸びる子は伸ばしたいと思ってやっているんですが、現状が一様にやっているだけでは難しく、授業中に個別指導をしたりとかそういうことも当然必要なあというふうに思います。

あとは、そのテストではなかなか活躍できないんですけど、昔もそうですけど体育ではとてもヒーローになれる子もいたり、逆に総合的な学習の時間ではテスト関係ないので、むしろそこで輝く子どもがいたりする場合もあります。

例えば私の経験では、本当にテストはなかなか難しいんですが、総合的な学習の時間で保育園との交流をやったら、もう学力のそんなに高くない子がとっても人気で、小さい子が集まってきて、それでその子がとても充実感、満足感を得られる。そういうのが総合的な学習の時間の良さでもあるかなというふうに思います。

みんな同じように学力が上がるのが1番なんですけども、様々な活動の結果、その中で居場所や自分の充実感、自己肯定感を持てる活動が持てることが大事であるかなあというふうに思いますし、多分、学校の先生方もそのまさに0点代から100点代の子たちについては、何とかしたいと思いつつもやっていることは事実かなと思っています。参考までですけども。

貴重なご意見ですね。ありがとうございます。

北澤教育委員さん、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 大きく2つですけど、1つは、7月11日に主幹指導主事帯同で竜峡中へ行ってきました。ここ3年ほどで非常に若い先生方が増えている中で、「授業づくりについて学びたい」という若い先生方のご意見で、今年は7教科で県から指導主事を呼んで14回公開授業をやるというような非常に張り切った、これは決して校長先生、教頭先生がやれといった話ではないそうで、若い先生方から主体的に授業づくりについて学

びたいといって研修する機会が設けられている。

校長先生からも働き方改革を進める一方で、授業づくりの研修ということについては、力を注ぎたいというような話があり、まさにそのとおりだなと思いますし、それに期待したいというのが1点です。

それから英語の先生と話したときに、私たちがもう少し意識しなければいけない部分の話をいただきました。「小学校三年から外国語の学習が入り、五・六年生から英語を正式教科として学んだ子どもたちがいよいよ中学生になって入学してきた」と。「そうするとこれまでの中学校一年生の英語の授業の導入期とは子どもの実態がぜんぜん違う。特に文字指導などが、小学校でかなりされた状態に入ってくるので、中学校一年生の特に一学期の導入の仕方、学習の進め方について、中学のほうでももう少し先生方が研修しないといけないということを痛感している」という竜峡中の英語の先生のお話がありました。

ちなみに、その先生は「この夏休みに筑波大学の附属中学校の英語の研修会へ行って、そのあたりの授業の在り方の研修をしてきたい」というようなことをおっしゃっていましたが、そんな現場の状況について私たちも承知している必要があると思います。

あともう1点は、タブレットの持ち帰りも進んできて、中学生の荷物が非常に増えてきていて、従来の鞆は使い勝手が悪い。保護者や生徒からかなり要望があって、来年の中一から鞆を縦長の、実物も見せてもらいましたけれど、非常に軽量化されたタブレットもスムーズに入って荷物も入るっていったような鞆に変えるということで、その鞆が展示してありました。

そうやって考えていくと、小学生のランドセル、小学校二年生ぐらいのものを持たせてもらって、非常に重いんですね。びっくりするほど重い鞆を子どもたちは今、背負っているんですけど、前々からあれが子どもの体にどういう影響を及ぼすかという意見もある中ですが、すぐにどうこうではないのですけれど、考えていかないといけない部分でもあるなと思われました。

それから大きなもう1点は、一昨日ですけれど、県の教育委員会と市町村教育委員会の代議員との懇談会っていうのが長野でありまして出てきました。そこで懇談したテーマは、1つは「GIGAスクール推進上の諸課題」というので1時間ぐらい懇談しました。話題になっていたのは、「令和8年の段階で更新時期が来る」と。「要するにタブレットを導入したけれど、更新時期がくるときに、非常にお金がかかる」と。「ついでに国へ資金の補助等について要望していく必要があるのではないか」というような部分でのやり取りをしました。県のほうの回答では「今回の導入についても47億円の資金がかかっている。今度の

更新についてもほぼ同額のことが想定されている」と。「だけど今現在、国は何も言ってない」と。「そのことについて、令和の5～6年度くらいには、いろんなところから声を上げていって、令和8年度の更新時期に各市町村だけでこれを負担していくということとはとてもできない相談だろう」というようなやり取りがありました。

それからもう1点は、不登校児童生徒への対応で、先ほども話題になってきているところですけど、その増加が非常に続いていると。そんな中で例えば伊那市では、昼間の中間教室じゃなくて、夜間の中間教室、夕方6時半から8時半までの夜間の中間教室を開設していて、そこへ今10名ぐらいのお子さんが通ってきているとのことでした。

それから週に1回だけになってしまうけれど、地区の公民館を使って、出張寺子屋みたいなものを作って、そこにも数名のお子さんたちが通ってきていて、少しでも外とつながる居場所づくりといったことで、「柔軟な設定を実施しているところだ」といった発表がありました。

飯田市の中でもいろんなところで子どもたちが関わった場合に、登校の扱いについて、去年、三尾統括から具体的なガイドラインの説明もあって、飯田市のガイドラインをきちっと決めて登校扱いにすることについてやってきているわけです。県の心の支援課の話では、「県として基準を示すことはしないし、したくない」と。「なぜかという、基準を示すことで個々様々な状況を抱えているお子さんと、それに関わって支援している人たちの努力を、基準に外れるから登校扱いしないと、無駄にしたいとは思わない」と。「例えば伊那市のような例もだし、飯田市の例もそうですけど、個々に応じて関わっていることを積極的、柔軟に判断をして登校扱いをしていってもらいたい」という、そんなコメントがありました。

最後は、先ほど上河内委員もおっしゃっていて、県の代議員会でも要望したのですが、リモートによる授業とか、それからフリースクール等も非常に増えてきている状況で、学ぶ機会というのをどう捉えていったらいいか。ただ、学校に登校していることだけが登校ではないということは、国も認めているところですけど、その学ぶ機会をどう捉えたらいいかという辺りについて、県のほうももうちょっと踏み込んだ一手を考えていく必要があるのではないかと、いったことを申し上げた会議でした。

ちょっと大雑把な報告ですけど、以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

野澤委員さん、何かありますか。

◇教育委員（野澤稔弘） 特にございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（2）参与報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは続いて、「参与報告事項」、お願いします。

◎参与（松下 徹） 特にございません。

（3）学校教育課報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 3番目に行きます。「学校教育課関係報告事項」。

専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） お願いします。

それでは、資料No.2、第26回三遠南信教育サミットについてご報告をいたします。

7月8日金曜日に行われました、第26回三遠南信教育サミットに熊谷教育長、櫻井課長補佐、私専門幹が参加しましたのでご報告いたします。

会場は、浜松市のホテルクラウンパレス浜松で、午後1時半から開催されました。

開会行事の後、静岡大学教育学部准教授で長野県出身の島田敬吾先生が、対象が教育委員会の方々であるということで、「公教育を捉え直す～リーガルマインドを軸に～」と題して40分間の講演をいただきました。講演では、実際の裁判例を挙げて、教育活動と法との関連を説明していただきました。現在の学校の課題を法的な視点から考察し、実際に生かしていくことの大切さを聞かせていただきました。

その後は、3地区それぞれの教育委員会から30分ずつ事例発表がありました。

最初に、豊根村教育委員会から全国に先駆けて平成28年度に豊根中学校にWindowsタブレットを1人1台ずつ貸与しICT教育を先進的に進めてきたことから、令和2年度にはオンライン授業やタブレット端末の持ち帰りにいち早く対応できたことなどが報告ありました。また、キャリア教育やコミュニティスクールへの取組についてもお話がありました。

続いて、長野県の根羽村教育委員会からは、根羽学園設立までの経緯や設立に至るまでのご苦労などについて聞かせていただきました。

令和3年度には、小学校全ての学年が複式になり、中学校も複式が始まってしまうという危機感から、平成30年4月に新たな根羽学校検討委員会を立ち上げ、保護者と情報共有を行い、平成31年2月に義務教育学校設立準備委員会を設置して、令和2年4月に根羽学園の開設につながれたということを聞かせていただきました。

非常に短い期間で準備をして、義務教育学校になったというお話を聞かせていただきま

した。また新しい校章は、現下井教育長さん自身がデザインされたものであるということ
を教えてくださいました。

浜松市教育委員会からは、特に不登校不適應児童に関する支援についての発表がありま
した。

特に校内適応指導教室の設置では、利用者の6割の児童生徒が学校へ復帰、あるいは学
校等の併用ができていたということ。また、外国籍児童生徒の支援として、
就学前プレスクールを実施して、外国籍の児童生徒が安心して入学できる体制ができて
いるといったことの発表がありました。

3年ぶりの開催になる三遠南信教育サミットになりましたが、まだまだコロナ禍なので
情報交換会はなく、閉会后、浜松市楽器博物館を見学し、全日程を終了いたしました。

最後の42ページをご覧くださいと、先ほど教育長からお話がありましたが、来年の開催
地が飯田市となっています。三遠南信教育サミットは、毎年7月の第2ないしは第3の金
曜日に開催されています。そこで、来年度は、第2金曜日の7月14日に開催する方向で準
備に取り掛かりたいというふうに考えております。

報告は以上となります。

○教育長（熊谷邦千加） はい、来年度のこともありますので、専門幹そして櫻井補佐に行って
いただきましたが、何かご質問はございませんか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

（4）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、（4）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊藤課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは資料の13ページをお願いいたします。

1点目は、伊勢市との小学生交流の関係でございます。

これは山と海のそれぞれの地域の小学生交流ということで、長い間続いているものでご
ざいますが、今年度は8月5日に松尾公民館を会場に実施をしたいと思います。

本来でありましたら伊勢を訪問するという年でありますけれども、相互で協議をしてリ
モートでということで、記載の5番にあります日程のような形で伊勢のほうのかまぼこ、
そういった体験もできるようにということで計画をしておりますけれども、現状今、新型

コロナウイルスの関係の感染が大分増えているということで、学校間をまたがる活動となりますので、再度団長の校長先生等と相談しながら、内容については変更があるかもしれませんが、そんな日程で開催をしてみたいと思います。

おめくりいただいて14ページをお願いいたします。

「わが家の結いタイム」の取組について、これまでは同じような啓発活動を続けてきたということを反省、またコロナ禍で家族と一緒に過ごす時間が多かったと思っていましたが、昨年度の市民意識調査の中では、家族中でのコミュニケーションの機会が減っていると。そういった実態を踏まえて、少しやり方を変えていきたいということで、今回は企業の皆さんと一緒に取組ができないかということで、現状、仮称ということで案の段階でございます。

本来なら協議事項でご意見いただけるとありがたいなあと思いますが、会社のほうでも今、働き方っていうのは大きく変わってきていますので、そういったところのワーク・ライフ・バランスのようなことが大きな視点として捉えられてきていますので、そういった意味では保護者世代の働き方に合わせて呼びかけをしていくときに、企業の皆さんからも呼びかけをしてもらうようなことができないかということで、2番の取組例というところに8項目ほどありますが、企業のほうから結いの日を自分で定めていただいてPRをしていただくとか、お昼休みに「今日、結いの日です」という会社の定めた日を周知してもらう。または参観日やなんかの日には休みをとって、参観日に出席するようなことを奨励してもらう。

そういった取組について連携をしながらできないかということで、まだ案の段階でありますので、また皆さんのご意見いただきながら少し工夫をした啓発活動に取り組んでいきたいというものでございます。

続きまして、15ページでございます。

風越登山マラソンでありますけれども、コロナ禍で2年間中止ということで、改めて1番にありますようにこの大会の目的を今回、実行委員会で整理をさせていただきました。風越山を舞台に大会を開催することで多くの市民の参加を促しながら、市民の健康と子どもの体力向上という視点と信仰の山として古くから親しまれてきた飯田市のシンボルである風越山に親しむ機会とするということ。3点目としますと、登山コースという全国でも過酷な大会として飯田市をPRする機会にしたいということで、10月23日に5番にありますような部門で、例年と同様でありますけれども、開催をしていきたいということで、実行委員会のほうで確認ができましたので、また募集を開始していくというものでござい

す。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、今3点、説明いただきましたが、何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 野澤委員、わが家の結いタイムのパートナー企業っていうので取組例というのがあるんですけど、企業のほうから見た場合にはどんな感じですかね、こういうのは。

◇教育委員（野澤稔弘） 私からすればもっと働いてほしいというのが正直なところ。現実はそのうですけども、今の30代、20代の若者は働くことよりも家に帰りたいというのが先行しますので、自分的には残業もしたくないし、できれば早く帰って子どもの顔を見たいっていうそういう感じですね。

私どもの会社では、もう今、初めてですけど、男性で育休を今年取るというのが出てきているんで、そういうところも考えると結いタイムというよりは、働くということに関する概念というか、そういうものが非常に変わってきて変質してきているだろうなというのがあるかなと思います。

だから経済一辺倒ではなくなってきているので、その部分というのを我々企業サイドで考えたときには、何かしらそれを変えていかざるを得ない部分が、経済一辺倒じゃない方向に変えていかざるを得ない部分が出てくるだろうなあと思っているんで、そこらの変革というのが先ほどの学校の統廃合じゃないですけども、非常につながるところがありまして、何かしらどこかから撤退をすとか、削るとか、要するに我々で代表をやっている人間からすると、増やしていくことは簡単なんですけど、減らすということは非常に難しいですね。だからそういう部分でいくと、その決断をするっていうのは非常に難しいところであるんで、この周りの環境がかなり変わってきているところで、そういうことをやるにあたっては、相当慎重にいろんなことを考えながらやらなければならないというのは、まさに一緒だなというふうに思いながら先ほどからずっと考えておりました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

そういった思いを大事にしながら進めていければなあとと思いますし、学校も本当に削るのは上手くないところがあるかなというふうに思います。

ほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

（5）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（5）「文化財保護活用課関係報告事項」。

宮下館長。

◎文化財保護活用課長兼考古学博物館長（宮下利彦） 資料等ございませんけれども、小中学校などが夏休みに入るといふことで、考古博物館のほうで毎年恒例になっておりますけれども、「夏休み考古塾」と題しまして、毎週日曜日に縄文土器ですとか勾玉などをつくるワークショップを開催する計画であります。

また、8月の終わりには現在発掘調査をしている上郷黒田の大明神原遺跡で親子の発掘体験を行います。募集が間もなくかかる場所ですけれども、考古の世界に触れていただく機会になればと思っております。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

後で併せてお聞きしたいと思います。

（6）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （6）「公民館関係報告事項」。

◎市公民館副館長（秦野高彦） 本日はございません。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、「文化会館関係報告事項」。

下井館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 今、お手元にいいだ人形劇フェスタのプログラムをお配りいたしました。これ、先週出来上がったというのですが、7月8日から有料公演の予約というチケット販売が始まったということでございますけれども、もう既に完売というところも出ております。

そういうところは結構なんです、コロナのほうの今の感染の状況があまり楽観視できないような状況になってきたので、心配ですけれども、今、準備を進めておるといふことになります。

以上です。

(8) 図書館関係報告事業

○教育長（熊谷邦千加） （8）番の「図書館関係報告事項」。

瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

図書館からよむとす事業の報告ということで、6月の駅前図書館の利用を少しご報告させていただきますと思います。

5月から開館しましたが、6月1カ月で貸出しの利用をしていただいた方が685名、延べですけれども、いらっしゃいました。高校生が読書に親しむためにということであったんですけれども、そのうち高校生は69人、延べの人数で使っていただいている状況になっております。昨年度の中央図書館の高校生の利用と比べますと少し少ないという状態で、目的がまだ達成されてないといえますか、高校生に使っていただくようにしていかなくてはいけないというふうに思っているところです。

そこで8月には、高校の図書委員会の交流会ですとか、高校生が図書館の蔵書を本屋さんで買いに行く。それから9月になったら買いに行った本を自分でビニールのコーティングをして図書館に配置していただくなど、高校生に図書館に親しんでいただいたり、やってみたいことをやるというきっかけになるようなことを少しずつ計画して進める予定であります。

もう1点、今日、チラシをお配りいたしましたけれども、青いチラシです。一昨年計画をして募集をしていたんですけれども、コロナの関係で延期になっておりました清水眞砂子さんの講演会です。図書館が事務局をしています子どもの本研究会の主催で子どもゆめ基金の助成を受けて行うものですが、ゲド戦記の翻訳者である清水眞砂子さんが「物語の持つ力」ということで、8月28日に講演を行うようになっておりますので、ご案内をさせていただきます。

以上です。

(9) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（9）「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは、今回水色の「びはくにゅーす」

を配らせていただきましたけれども、夏休みの関係でご報告させていただきたいのが、右

下にあります「ワクワクびはくで夏休み」ということで、これは平成 18 年から令和元年度まで美博まつりとして親子を中心としまして、より多くの市民の皆さんに美術博物館を身近に利用してもらいたいということで来館を通して伊那谷の自然や文化に親しみを持つ機会にしてほしいということでやってきたわけですが、コロナ禍ということで代替イベントという形になるわけですが、規模を縮小して3密を避けてということで開催をしております。

ワークショップは、密を避けるために事前予約をいただくようにしています。このような形で今年は、8月11日山の日祝日になりますけれども、記載の7つのワークショップを開催するよう計画しております。

以上です。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて、「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） 今日、チラシをお配りさせていただきましたけれども、第19回の飯田市地域史研究集会を、9月10日・11日に開催いたします。

そこに記載のとおり、今年度は「満州移民—下伊那から再考する」をテーマとして開催します。

今年、満州移民ということで招集した1932年からちょうど90年に当たるということで、今回はこのテーマとさせていただきます。約30万人の方が農業移民や青少年義勇軍として満州に渡ったわけですが、長野県から大体3万3千余で、飯田下伊那からは8千人余りの方が一時渡って、その半数が犠牲になられた。そういうことがありまして、歴史研究所では平成15年の開所以来、調査研究の柱の1つとしまして満州移民の研究を継続しておりまして、今年度のこの研究集会ではこれまでの満州移民の研究成果を明らかにして広く市民に伝えて、また今後の課題や方向性を探りたいと考えております。

こちらにありますとおり、講演はお二人予定しておりまして、あと講演後、それぞれ満州の移民の体験のある方、満蒙開拓の平和記念館の職員の方、地元のテレビ局員、あとは当研究所のゼミ担当の研究員による報告を予定をしております。

今、お話がありましたようにコロナでかなり厳しい状況ではあるかと思いますが、昨年に引き続いてその場合はオンラインのみという形になるかと思いますが、そこにありますQRコードで専用サイトから申込みができるようにさせていただきます。

また、あわせて、図書館でも満州移民に関する企画展示をお願いする予定です。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、報告事項につきまして前半は少し質問をいただきましたが、前半を含めてでも結構ですが、何かご質問ご意見がありましたらお願いします。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（11）今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは、今後の日程について。

櫻井総務係長、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） 資料の3ページをお願いいたします。

今後の日程でございますが、7月27日には市町村教育委員会と県の教育委員会の懇談会をオンラインで行います。教育長のみのお出席となります。

8月5日には、第1回総合教育会議がございます。また、来月の教育委員会定例会につきまして、8月19日金曜日に予定しております。

以上、よろしく申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、今後の日程について何かご質問ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

本日予定されました議案等はこれで全てとなりますけれども、何かご発言等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） 日程第10、閉会。以上をもちまして、7月定例会を終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

閉会 午後4時25分